

新しい年に思う



学園花の村

池守幸一

先ず私たちの住む御前崎市の浜岡原発に関連する報告です。この4月に市長選、市議選が予定されていますが、今のところ市長選への名乗りは交付金期待の現職と、脱原発では票が逃げるという元市議2人だけ。ビシッと廃炉、永久停止を訴える候補の出現が望まれます。世論は御前崎市といえども脱原発が多数なので、うまくすれば脱原発の弾みがつく絶好の機会なのに。

定数16の市議選は脱派は3人のみ。残念ながら容認派が市長選も市議選も圧倒しています。御前崎市には人がいないのか。

東日本大震災と、原発汚染を経験して、多くの人がエネルギーを見直すとか、生活をもう少し節度のあるものにならなければと考え始めているはず。確かにその通りなのですが、それだけでは足りない。私たちの豊かで便利な生活が問われているのです。持続型社会、持続型生活が求められている。持続型とは何か。それは農的社會、農的生活のことです。自然に優しい生き方、生命を大切に生きる生き方、生態系を守る生き方、之が農的生活で、農業を職業とするかどうか、農村に居住するかどうかは問いません。問いませんが職業かどうかは別にして農業に勤しむ人が増えること、之は決定的に大事です。できるだけ多くの人が鋤を持つ。事情があつて鋤が手にできない人は支える側にまわる。

買って、食って、支えるのです。

成熟社会となつてモノ余り、モノ溢れの社会になつた。過去には考えられなかつた慢性的に供給過剰な時代の到来です。加えて資源や食料がこのままいくと不足、枯渇するのではないかという不安です。これらが農的社會を求めています。新しい文明が待たれています。

小さいながら私たちの「花の村」が新しい時代を開いていく、そういう役割を果たせたらと願っています。



新年に95歳の農業青年を訪ねる

新年に、農業青年を自称する95歳の相羽さんを訪ね、元気な生活語ってもらいました。相羽さんの「近況問はず語り」です

今年も田んぼの仕事始めは11日のタンブチコウ(田打ち講)からだ。朝6時半、田の真ん中にタンブチコウのお供えをして『今年も無事に秋のお米が取れるようお願いしますよ』と田の神様にお願ひした。昭和の初め、小学校のころは近所どこでもやっていた。女衆は行かなかつたが近所の子供は皆行つた。子供が5人いれば大きいお供えが一つ、子供用の小さいのが5つ供えられた。今ではこれをやっているのは私のところだけ。兵役の9年間を除くとこれまで1回もこのタンブチコウを休んだことはない。一日家でぼつとしていないことはない。雨が降って畑に出れないときでも何かやりたくて、

仕事を見つけて体を動かして。その原動力は食べること。自分で作る。食生活の中心は野菜。朝は味噌汁。味噌汁というよりは味噌煮だ。中味が7色以上と山盛りだ。

お豆腐、油揚げ、大根、白菜、にんじん、ジャガイモ・サトイモ、玉ねぎ、シイタケ、モヤシ、みんな畑で採れるものばかり。それに味噌、酒かす。だしは魚粉。味噌汁をお椀によそるとき刻んだねぎを入れる。それにかじめを細かく切つたものも入れる。梅干一つ、焼き海苔2枚、大根おろし、ちりめんじゃこ、沢庵、白菜の塩漬、きゅうりの糠漬、大根とにんじんのなます、生姜をすって佃煮にしたもの。みんなに野菜の味噌煮といっているが、買ってくるものは豆腐とお揚げと魚ぐらいであとは皆自分の畑で取れた旬のものか、貰いものだ。夕飯には2日に1回くらい魚か肉を添える。

血圧は高い方で200を越える時があり薬を服用、注意している。そのほかは過ちの怪我だ。手も、脚にも傷だらけ。骨も折つた。余計なことばかりしたからね。手の指が取れてしまいそうな怪我もした。胃潰瘍で59歳の時、胃を3分の2取つた。食いすぎだ。当時1回のご飯を4杯、お味噌汁も4杯で、朝、10時、2時、夕飯



おの梅竹松とスキスのお供え「タンブチコウ」

の1日4食、そのうえオジャガ、サツマイモなどを田んぼに持つていった。1日16杯の飯を食つた勘定になる。

(以下次号)